

新最終処分場の整備等に関する住民説明会（第12回）開催後に寄せられたご意見

※ ご意見の内容は、要約してまとめておりますのでご了承ください。

区分	ご意見の内容	回答
新処理施設・ 新一般廃棄物 最終処分場	焼却する施設の処理方式を変えることで、焼却灰の量を減らし、埋立量が減ることから、規模を小さくできるのではないか。	焼却方法については検討の結果、ストーカ方式とし、埋立容量についてもストーカ方式を前提に、必要な量を確保するものです。
新一般廃棄物 最終処分場	説明会において、業者ではなく組合が直接説明すべきではないか。	調査の内容は専門性が高いものであることから、住民の皆様により詳しく、ご理解いただきやすい説明を行うため、受託業者からの説明としました。
新一般廃棄物 最終処分場	住民の理解が得られていない。他の候補地を検討してはどうか。	候補地の選定過程については、これまでの住民説明会でお知らせしてきたとおりです。 これからも住民の方へご理解いただけるよう、様々な機会を捉え、理解促進に努めてまいります。
新一般廃棄物 最終処分場	ごみの処理事業はごみを綺麗にして地球に戻す事業であり、根本は我々市民の責任において行うものだと思う。 最終処分場整備で懸念される問題点は払拭されたと思うため、最終処分場は環境をクリーンにするものだと言えかけて行って欲しい。	廃棄物処理は、組合と住民の皆様とが共に考え、進めていくものであると考えております。 今後も最終処分場整備について、正しい情報を周知してまいります。

新最終処分場の整備等に関する住民説明会（第12回）開催後に寄せられたご意見

※ ご意見の内容は、要約してまとめておりますのでご了承ください。

区分	ご意見の内容	回答
新一般廃棄物 最終処分場	最終処分場からの漏水が心配なため、市へ地下水を飲料水としている各家庭の水質検査を行う計画を要望する。	最終処分場の構造は、埋立地内全体に遮水シートなど多層にシートが敷かれており、埋立地内の廃棄物に接した水が外に出ないようにしております。 万が一遮水シートが破損した場合、漏水する前に検知できるようにシートの中に漏水検知システムを導入します。 また、最終処分場敷地内を挟んだ上流と下流には地下水観測用の井戸を設置し、定期的な水質検査も行うこととしております。 生活環境影響調査及び設計により、最終処分場建設において、地下水が流れる地層までは改変が至らないことを確認しており、地下水への影響はほとんどないと考えられます。 また、地質調査による地層の状況から、地形沿いに地下水が流れていることが分かっており、万が一の場合にも敷地外へ影響を及ぼすことは考えにくい状況であることを確認しております。 このことから、組合として検査を行う計画はありません。 なお、いただいたご意見については市と情報共有いたします。
新一般廃棄物 最終処分場	廃止後も継続した検査管理を要望する。	廃止後の検査等については、法令に基づいた対応を行ってまいります。

新最終処分場の整備等に関する住民説明会（第12回）開催後に寄せられたご意見

※ ご意見の内容は、要約してまとめておりますのでご了承ください。

区分	ご意見の内容	回答
新一般廃棄物 最終処分場	この事業に関する記録の保存について、担当者が変わり、住民が反対したことの記録をもみ消すようなことにならないように願う。	担当者が変わるにより記録が変わることはありません。
新一般廃棄物 最終処分場	子供の通学路として、現在の道路では道幅がかなり狭く、歩道もないため安全ではない。 ここにダンプが通るとなると危険でしかない。それでも広域行政組合の管轄ではないので知らないという話か。 若者を大事にするのであれば、道路についても配慮するべきだ。	市道の整備については一関市で行うものであることから、ご意見については市と情報共有してまいります。 なお、交通量調査については生活環境影響調査において、組合でも実施しており、観測した3日間（11月14日正午～11月17日正午）のうち、24時間あたりの通行車両は平均のべ965台（うち、大型車類は74台）となっております。 新最終処分場による大型車両の増加は最大で運搬車両10台（5台の往復）を見込んでいることから、最終処分場稼働による影響は大きくないものと考えております。 そのうえで、皆様の生活への影響を可能な限り低減するため、車両の走行時間の分散化や、通学時間を避けた運行を行うなどの配慮に努めてまいります。
新一般廃棄物 最終処分場	最終処分場は、千厩町でもいいが、北ノ沢ではないと思う。もう少し町から離れた、住居がないような場所を選ぶべきだ。	候補地の選定過程については、これまでの住民説明会でお知らせしてきたとおりです。